

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2793200169		
法人名	あんしんケアねっと有限会社		
事業所名	グループホームめぐる		
所在地	大阪府守口市八雲北町1丁目17番12号		
自己評価作成日	令和元年5月12日	評価結果市町村受理日	令和元年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和元年6月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心感のあるケアをチームで提供し、人生の終盤に認知症を抱えながら暮らすご入居者の貴重な時間がより良いものとなるよう、企画し実行し反省しながら事業所運営をしています。安心感ある日常生活をベースに地域からお誘いいただく「春・秋の寄せ植え教室」「ハーバリウム体験会」。氏神様の夏・秋まつりでは地車や子供の竜踊りの来訪。下島公園の桜まつりのブース出展。等々地域行事に積極的に参加しています。また、概ね2ヶ月1回のボランティアイベント、近所や公園への散歩や併設するプチ菜園(近隣ボランティアさんとの共同運営)の世話や収穫。など、さまざまな交流を心掛け実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の運営は、施設長⇒外部への情報発信及び社会的活動、運営のかじ取り、管理者⇒介護経験を活かした現場の統括、介護職員⇒利用者の健康な暮らしを支える責任者、が夫々に役割を相互にシェアして利用者との家族の満足度高めている。施設長はSNSを駆使して、外部の介護にかかわる人々との交流・相互の研修・啓蒙、行政との連携、地域との交流に努めている。1例として「認知症 理解と予防とご近所づきあい」というテーマで施設長が公民館で地域講座を訪問調査4日前に開いている。また訪問調査当日に運営推進会議があり、調査員もオブザーバーの立場で同席することができた。外部から出席(3名)の会議構成員の積極的な発言も多く、この日も地域連携の大切さが話し合われた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「命は時間、よりよい今をみんなでつくる」の施設理念をベースとし、ご入居者直筆「大切な時間、よりよい今をみんなでつくる」額を掲示し、日々確認している。	現在も健在である利用者の味わい深い直筆の「大事な時間 よりよい今を みんなで作る」理念が、玄関及び各ユニット掲示されている。開設後最初の当サービス評価の時に事業所の介護の心として表されたものであり、実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事への参加、地域ボランティアの方々との共同運営する併設プチ菜園などの交流を継続している。	施設長を中心にして地域との交流が熱心に取り組んでいる。その結果、地域の認知症に関する理解も深まり、相互に支え合う関係が深まっている。事業所内の菜園は地域のボランティアが耕し、手入れして野菜が獲れ、利用者の食卓に提供されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年秋に開催する認知症啓発イベント「守口らんらん♪」に法人をあげて運営参加。また春の守口さくら祭りに手作りアイテムの物販ブースを出展。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の運営推進会議で家族より災害時の避難先の確保について意見があり、近隣老人保健施設と災害時避難協定を結ぶ等、サービス向上に活かしている。	訪問調査当日には第18回運営推進会議が開催された。近隣住民、地域包括支援センター、知見者として近隣の老健職員が参加されていた。事業所の現状、新しい取り組み、地域行事の情報交換があり、外部出席者の意見、感想、希望などの意見交換があった。次回8月の日程が連絡されて会議が終了した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と気軽に意見交換できる関係性が出来ている。	守口市の高齢者担当、介護保険窓口のくすの木連合、地域包括支援センターとの情報交換が常時行われている。市が推進する高齢者支援行政施策に対して、市内の高齢者介護事業者と連携して協力する活動を施設長が熱心に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期定期に職員研修を行っている。玄関施錠については外部からの不審者侵入の観点から実施している。	身体拘束防止を目的とした委員会を職員が中心となって立ち上げて、定期的にケアの状況を点検している。玄関は防犯上施錠しているが、拘束感が出ないように、外へ出る様子を見せる利用者には職員がすぐに対応して、一緒の外に出るなり、それとなく気分が落ち着くような話しかけを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	就業規則やサービス規程に盛り込み、評価項目に落とし込むよう企画している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	顧問弁護士と連携し、運営や研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の家族参加はじめ、職員はご入居者の家族とも折に触れコミュニケーションをとっている。	暮らしの様子を家族に知らせる資料には、写真付きで手書きによる担当職員のメッセージが書いてある「おやつにホットケーキ甘いもの好きな〇〇様大変喜んでおられました」など心温まる職員の気持ちが家族に伝わっている。家族からの担当する職員の顔が見える関係にある。	家族に知らせる写真と職員メッセージ付きの便りについて、洗顔している様子、歩いている時のスナップなど普段の生活で本人の健康状態を家族に伝える写真なども欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は給料明細手渡し時に感謝の言葉と困りごとなど聞き取り、職員個別面談を年3回行っている。管理者は必要に応じ随時面談を行うとともに、全体会議や各委員会でも意見交換を行っている。	施設長は事業所開設に際に「自分は未経験者なので職員は経験者を」という思いで現場を任せる人材を集めた経緯がある。介護職の「働きやすさ」を追及する、現場の意見を尊重する運営姿勢が貫かれている職場と感じられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給の積極消化、残業なし、休憩確約を職場の文化としている。また、定年後も働く意思をしめされた場合の延長雇用も積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら、介護福祉士を取得した職員や、介護未経験者の技量の向上など、職員のスキルアップが進んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グルホーム連絡会への参加やそこから波及した守口介護フェア2019の企画運営など行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談時にCM、CWと一時間ぐらいの時間をかけて、不安ごと、出来る出来ない事、要望なども聞き取り、不安なく入居日を迎えられるようコミュニケーションを取っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に、家族様より聞き取りを行い、不安解消に努め、本人様への要望やどんなことをしてほしい等も含めてアセスメントを取っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に再度、面談時の情報を確認し、初期に始める支援、徐々に始める支援等確認し、ケアプランを作成していく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のコミュニケーションで信頼関係づくりを行っているが、支援にあたり毎回確認し、本人様の現状に合った支援を行う事で良い支援に繋げている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会時には、現状報告を行い、日々の生活でのエピソードを伝えている。家族様にも安心して頂けるよう声掛けを行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者によっては、定期的に自宅に戻ったり、親戚の家に行ったりと外出含め気軽にできるよう支援している。また、家族・友人の訪問も当たり前のように行われている。	在宅の時と同じような人間関係や社会とのつながりを事業所の生活でも維持できるように、馴染みの店に買い物に行ったり、自宅への帰宅、知人友人との交流、お墓詣りなどを支援している。利用者も事業所を訪問してきた人に「いらっしやい」と声をかけてくれる雰囲気である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調を見ながら起床後はフロアで過ごして頂き、他者との交流が持てるよう、会話のお手伝いを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時の相談や、退去時の相談、居宅で生活される場合は、地域のケアマネさんと情報交換し、生活維持が出来るよう支援を行い、本人様、家族様が不安にならないよう支援します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に対して担当スタッフを決め、一人一人に寄り添う得よう工夫している、また入居時にアセスメントを取るが、状態が変化したときに再度アセスメントし、本人様、家族様の希望、意向を把握している	利用者ごとに決められた担当職員が中心となって、本人や家族から暮らし方の希望を聞き取っている。生活歴や趣味、嗜好、得意なこと、嫌いなことなどを書類に記録して職員間で情報共有している。必要によりケアプランにも反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅あるいは施設、病院を訪問し、家族様を交えて聞き取りを行っている。前ケアマネ、全CWさんにも聞き取り情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン第3表で24時間に分けて、個別サービスを記入し、CWが分かるよう日々のファイルに綴じ閲覧できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のモニタリングと状態に合わせ、担当者会議が必要か否かを決定し、状況に応じた担当者会議(家族様も含む)を行い、ケアプランの見直しを行っている	利用者には担当者が決められている。状態の変化を記録に書いて、毎月モニタリングでフォローし、職員間で各利用者の状態変化を共有している。見直しが必要と判断された場合は、家族に説明して希望を聞き、医師の意見を参考にして本人本位の新しい介護支援計画書を作成している。また、家族に説明して同意も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録(時間、状況、状態など)を作成し、CW、CMで情報を共有。急ぎのサービス内容変化は申し送りノートで皆で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様が対応している通院や買物等があるが、緊急性のある通院や買物等、職員で対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加できるよう、回覧板で把握し、参加可能な方を数名ずつお連れしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と日々の連携。定期的な受診は家族様が対応している。(Dr. と家族様とのコミュニケーション含む)急変の場合も電話相談、指示をもらっている	入所に当たっての、かかりつけ医の選定は本人及び家族の希望を優先して決定している。以前からのクリニックを選定された場合でも担当する医師と連携を取り、情報交換して利用者の健康管理に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との申し送りノートを作り、訪問時に職員が聞き忘れがないよう記載し、返答も記入することで連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はア介護サマリーを病院に渡し、退院時はカンファレンスに参加している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には生活リスク説明をしているが、看取りに近い状態の方には事前調査書を記入して頂いている。	重要事項説明書には看取り支援にも対応する旨が明記されている。重篤の状態になった場合は再度家族に意向を確認して、医師の指示により家族と協力して支援が行われている。すぐ近くが実家の利用者の場合でも、家族のたつての希望で、事業所での看取りが行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアル、救急搬送時のマニュアルを常時閲覧できるようフロアに設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応マニュアル、救急搬送時のマニュアルを常時閲覧できるようフロアに設置している。	近隣との日常的な交流が維持されているので、災害時(特に火災)近隣の協力支援が期待できると思われる。自然災害は淀川沿いの立地であるため、消防から避難命令が出た場合は、近隣と協力しながら守口市指定の避難場所に避難する危機管理体制である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束、虐待委員会を2カ月に一回行い、言葉かけの内容確認や、事例をもとに、会議を行い、他職員にはフロアー会議で伝達している	職員は年長者であり、人生経験豊かな利用者に対して尊敬の念をもって接する日常を心掛けている。職員会議では時々、接遇に関するテーマを取り上げて姿勢を正すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	過剰介護、支援にならないよう、各担当者が個別サービスの内容確認。月一回のモニタリング時には思いを聞いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人に意見を聞き、その都度サービス内容も変更できるよう柔軟な支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容の手配、起床時の洋服選びの支援、保清保持の支援実施		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の片づけ、拭き上げ、食器の整理。ホットプレートを使ったレクリエーションでのお手伝いをしてもらっている。パンケーキ作り、お好み焼き等の粉作り、トッピング等もしてもらっている	台所の場所が衛生管理面の指摘で、食堂と離れているが、食卓で調理できるような食事レクを行って、食事作りの楽しみを味合う工夫がされている。菜園の野菜を食材に加えることも行われている。テーブル拭きや食器の片づけなど利用者の残存能力に応じて参加を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の把握。個々の表を作成し記入している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに誘導、促し行い、出来ない方は職員で実施。専門的な口腔ケアの支援(訪問歯科)の手配		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄表を作り、記入し、排泄時間を把握し、誘導。出来る限り時間排泄を行っている。	利用者個人個人の排泄チェックの記録を取り、体調の変化を把握しながら、排泄コントロールに心がけている。日中は、トイレでの排泄を習慣付けるために、タイミングを見計らった事前の誘導がおこなわれている。水分補給や食材との関係にも配慮が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療、訪問看護と連携し、排便管理を行っている。介護日誌に記入し、職員全員で把握。坐薬、敵便、水薬と個々に応じた対応を実施している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日は決めているが、体調や、外出に合わせ臨機応変に時間、曜日を変更している。	週に2回は入浴してもらうように、あらかじめ予定を決めているが、本人の体調や気分を優先している。拒否がある場合は、時間や日を変えている。又、健康状態により清拭やシャワー浴に切り替えての、清潔保持に努めている。入浴を主として担当する職員を配置して、馴染みの関係で支援を行う取組も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠後は、2時間ごとに安否確認を行い、起きている方には就寝促しをおこなったり、水分補給を促し、提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬情報を入れ、情報共有。日々の服用支援は薬箱を設置し、服薬表にて毎日二重チェックのもと介助している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は散歩。個々の体力に添った時間配分で実施。貼り絵、パズル、風船バレーなど、毎日のレクリエーションで行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣散歩を始め、地域行事に参加。初詣や夏・秋のお祭りなど年間行事で計画し実施している。また、個々のご入居者家族行事など気軽に行き来できるよう支援している。	近くには公園や神社もあり、散歩コースに恵まれており、天気と相談しながら外気に触れる機会を多く作っている。公園で行われる守口市のさくらまつりには事業所からもブースを出して地域に触れあう外出行事を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	イオンで好きなものを購入し、食事を行う。事前に家族様に禁止食事などのアンケートを行い、トラブル回避を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の音に気が付かない方も多く、鳴れば職員が対応し、本人様に渡している。友人や家族様に掛けたいとの申し出がある時は、口頭で言いながら支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスでのおやつタイム、日向ぼっこ、フロア内の保清、湿度計にて冷暖房機、窓開け等を行い、快適な温度になるよう調整。テラスや畑に季節の野菜を植え、水やりなどをしてもらい皆で育てている。	玄関の横には近所のボランティアと共同のプチ菜園があり手入れが行き届いている。内装は木質調で落ち着いた雰囲気となっている。1階にはテラスがあり利用者が外気に触れながらお茶を飲み囲らんする場所となっている。トイレや浴室の場所:表示も判りやすく、採光・音・温度・湿度も適度に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前にソファを置き、くつろげるスペースを作っている。テラスでは、家族様と過ごされたり、外気に触れられるよう椅子を常時設置し、場所を確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様が使っていたタンスや鏡台などを持参して頂けるよう声掛けしている。こたつ机、夫の遺影など持ち込まれている	利用者の許可を得て拝見した居室は清潔に保たれている。馴染みの家具(タンス、椅子、鏡台など)や置物などが家から持ち込まれて、安心して過ごせるような落ち着いた雰囲気の居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂のマーク、トイレのマーク、引き戸の矢印を大きく貼り、わかりやすく提示している。		